

【今年度の研究から】

「1番好きなのは、英語🎧💡・・・」

朝日町立さみさと小学校

教諭 広島 芳 恵

ある日の休み時間のことだった。3年ワークスペースに、5年生の女の子が二人遊びに来ていた。たわいもない会話を二言三言交わした後、話題は好きな教科のことになっていた。机の角に少し腰かけ、片足を上げて靴ひもを結びながらA子は言った。「私、1番好きなのは、英語!! 2番は、体育。」快活にそれだけ言い残すと、遊びの続きに二人は走り去って行った。

「1番好きなのは英語かあ。」私は内心驚いていた。A子は、スポーツメーカーのジャージの似合う長身の女の子である。これまでの経験から言って、小学生の人気NO1の教科は体育と相場が決まっている。それなのに、A子の中では、その体育を抜いたのだ。

小学校英語活動推進事業拠点校の研究を始めて今年で2年になる。その研究の一部がこんな形で子供たちの中に優しく息づいていた。

1年目の研究テーマは、「表現力」だった。だから、教科は英語にしぼらず、社会科や国語、学活など多岐にわたり、その中でのかかわる力を高めようを目指した。このときの英語活動は、「担任がとにかくやってみる」であった。担任が主導で子供のことを考え、どんな教材をもってくるとよいのか、どんな活動を仕組めば意欲的になるのかをALTやJTE(日本人英語教師)と協議しながら試してみた。取り組みやすいよう1時間の授業の流れの基本的なシステムや振り返りカードなどを全校で共通のものを用いた。

2年目は、シンプルに英語活動において「楽しくコミュニケーションを図り、仲間とともに学び合う子供の育成」とした。児童にアンケート調査を年2回行い、「英語が難しいから嫌いだ。」という子供をつくらないように全教員で知恵を出し合った。「この英語表現は難しすぎるのではないか。前の〇〇を繰り返してはどうか。」「子供はこのことを言いたいだろうから〇〇してはどうか。」研修会では、これまでの試行錯誤で得られた貴重な体験に基づいた意見が数々出され、より良い授業になるように練られていった。かくして、先生方の願いは見事に実り、子供たちの中に「英語が好きだよ」の花が咲いたのだった。



過日、中学校の1学年の英語の授業を参観する機会を得た。私とJTEの2名は、その素晴らしい授業を堪能した。同時にギャップの大きさにも驚かされた。毅然とした学習規律の中で、生徒たちは、はっきりと、何度も何度も声を出し集中して学習していた。教師の熱意に生徒も懸命に応えようとしていた。

子供たちが力をつけていくその裏で、教師はどのような力をどのような方法で、どのような段階を踏んで付けていくのか、教師たちも力を合わせて考えていかなければならない。一人一人の研修と全体の研修が絡み合ってこそ力が発揮されると思う。